

(受理番号) 5-9	(受理年月日) 令和5年6月30日
件名 要旨	陳 情
	<p>特定の地域や民族、思想、性別、LGBTQ+、身体的、精神的特性を持つ人に対する、差別や暴力、排除を絶対に許さないという決議について</p> <p>関東大震災の時に行われた朝鮮人虐殺から今年は100年になる。100年前の惨劇を繰り返さないために、差別やヘイトクライムは絶対に許さないという社会を作ることが重要である。議会として決議を上げていくべきと考える。</p> <p>私たちは「人権」を守る活動を行なっている市民団体である。</p> <p>2019年12月に初の感染者が出てから、一気に世界中に広まった新型コロナ感染症は、私たちに様々な問題を見せつけた。行政の危機対処能力の脆弱性、医療や保険制度が機能しなくなるという実態、普段は見えにくくなっている格差や貧困の実態などである。</p> <p>最も恐ろしいのは人々が経験したことのないものに直面した時に、恐怖心から他者を排除し、科学的根拠に基づかない行動をとるということである。「自粛警察」が各地に登場し、新型コロナ感染者に対する差別、そして攻撃が香川県でも行われた。高松市で、新型コロナに感染した保育士に対して過剰なパッシングが行われ、自殺したとの噂まで流された。</p> <p>情報通信が発達した現在、誰でも多くの情報を得ることができると同時に、間違った情報もあつという間に拡散されてしまう。最近ではChat GPTなどもでき、誰でも簡単にフェイク写真や動画を作って発信することができる。簡単には真偽を見極めることはできない。実際、これまでに大きな災害が起きた時にはフェイク情報が流され、その情報が拡散されてきた。「強姦魔が現れた」「ATMが荒らされている」など多くのデマが回っていたことが報告されている。その多くはすぐに「デマ」だとわかるもので、大きな問題にはなっていない。それでもこのようなデマが流されるたびに、在日コリアンの人達は恐怖を感じると聞いている。</p> <p>流言飛語によって虐殺が行われたのが1923年9月1日の関東大震災である。「朝鮮人が井戸に毒を入れた」「強姦、強盗、放火」とデマが広がっていった。また、内務省が朝鮮人放火を何の根拠もなく断定し、地方長官などに取り締まりを命じる通達を出したことが混乱に拍車をかけた。混乱した一般の人たちだけではなく、警察や軍隊までもが朝鮮人・中国人を虐殺していった。これらのことは多くの証言から、誰も否定できない事実である。虐殺された朝鮮人は数百から数千人、中国人については数百人、と言われている。「15円50銭とってみろ」などと詰問し、正しく発音できなければ虐殺していったとの証言がある。この中に、香川県から行商に行っていた15人の一行が朝鮮人とされて、女性や子供を含む9人と胎児1人の10人が千葉県福田村（現在野田市）で虐殺され川に捨てられたいわゆる「福田村事件」がある。この事件の問題は、もちろん「間違われた」ことではなく、</p>

大災害の中でこれらのような差別意識からくる虐殺が行われたということである。日本史上最大の災害の渦中ゆえ、情報通信は途絶え、大火災に襲われる混乱の中でのことなので、想像できないような恐怖心はあったであろう。しかし、単に恐怖心だけではなく、1910年の日韓併合（朝鮮の植民地化）以降、朝鮮人に対して強い差別意識が形成されていたこと、また「愛国心教育」が行われており、虐殺を行った当事者からは「国のためにやった」との証言が多く行われていることも指摘されている。

大災害が起きた時に、流言が行われることは100年前から続いている。その時に政府や行政がどのような発言を行うかが、市民がどのような行動をとるかに大きな影響を及ぼす。関東大震災では政府、行政、官憲が流言を広めてしまった。

関東大震災の時に朝鮮人、中国人に対する虐殺行為をおこなった人たちは、決して特別な人たちではなかった。日常的に持っていた朝鮮人に対する恐怖心と差別意識が残虐な行為へと走らせた。

新型コロナの感染拡大から、今も私たちは危機の時には他者に対して暴力的な行動をとってしまう危険性を持っていることが明らかになった。また実際に宇治市ウトロ地区や韓国学校に対する放火や、徳島県の韓国系団体に対する脅迫、各地の朝鮮学校に対する暴力的脅迫行為などを見ると、現代でも100年前と同じことが起きないとは決して言えない。

また、東京都では台風の際に、避難所が野宿者を受け入れないという「命の選別」が行われた。阪神淡路大震災や東日本大震災の際の避難所には「障がい者の人がいない」ということも災害支援を行っている人たちから報告されている。今現在国会で審議されているLGBTQ法についても、執拗にバッシングを繰り返す匿名の人たちがいる。

南海トラフ地震の危険はすぐそこに迫っている。日常から行政としていかなる時にも差別は絶対に許さない、差別意識からくる直接間接を問わず暴力的な言動は決して許されないということを発信し続けることが重要であると考える。

議会という言論の府の立場から、県民に対して以上のような「差別を許さない」という強い意志を決議していただくよう陳情する。